

- i 階層化されていく分類で、最下層が症例数 20 以上、一日当たり包括範囲点数変動係数が 1 未満というルールで分類され、支払い点数が決定された
- ii 入院基本料等加算、指導管理、リハビリテーション、精神科専門療法、手術・麻酔、放射線治療、心臓カテーテル法による諸検査、内視鏡検査、診断穿刺・検体採取、1000 点以上の処置については、従来どおりの出来高評価である。それ以外の化学療法などの薬剤、画像検査、投薬などは包括範囲支払い評価となった
- iii 疾患群に対して行われる手術群、処置群、副傷病名群、重症度などを、学会（保険医療に詳しい専門医集団）から意見集約し、最大公約数として定義テーブルに表記している。このテーブルを基にして、症例数や変動係数に留意しながら樹形図や支払いが決定されることが望ましいが、データに基づいた臨床的妥当性の検証が更に行われることが望ましい
- iv 臨床的概念を重視し、臨床病名とそれに対する手術、処置、更には副傷病や各重症度を階層的に樹形図として表記している
- v 部位病理を以下のように整理した。

腸炎（病原性大腸菌）はA040-4、腸炎（キャンピロバクター）はA045、腸炎（クロストリジウム）はA046-8、食道炎（逆流性含む）はK20,K210,K219,K221、
 食道形態機能異常はK220,K222,K224-5を、食道穿孔をK223、消化管出血をK226,K228,K920-2、
 消化管潰瘍をK270-9,K280-9,K521-9、急性胃炎をK290-2、慢性胃炎をK293-9、
 吸収不良症をK30,K900-9、放射線性消化管障害をK520,K627、過敏性消化管疾患をK580-9、
 腸間膜リンパ節炎をK930,I880、術後消化管機能障害をK910-4、不明他を
 A049,K229,K238,K310-8,K928-9,K938とした。

vi 手術を以下のように手術の難度順に整理した。下部内視鏡下止血術はK722、上部内視鏡下止血術はK654、胃瘻造設術をK664、食道狭窄拡張をK522\$, 食道裂孔ヘルニア手術をK537-2,K537\$, 食道噴門形成術をK530,K530-2,K667,K677-2とした。最終的に説明因子として10例以上集積するようにまとめ、重回帰分析した。

vii C(Comorbidity),C(Complication)と称する。更に Complication を併発症（入院後発症した、手術・処置と直接因果関係のない疾患）と続発症（入院後行われた手術・処置に直接因果関係のあるもの）とに区別することがある。今回併発症は深部静脈血栓症や肺梗塞としている。また続発症は各MDC毎に、T81\$,T84\$,T87\$から妥当なものを拾っている

viii 今回副傷病として、MD指標を活用したのは、現行定義テーブルの副傷病がMDC間（DPC間ですら）整合性がなく、未整理のままであり、これを整理する目的もかねて前述副傷病をリストアップし、これに前立腺肥大や深部静脈血栓、肺塞栓を追加した。肝障害のところにも妥当と思われるICD10コードをMD指標に追加している。更に慢性疾患疫学では、他の指標としてCharlson Index,Tu indexがあるが、ICD10コードで定義しているのはMD指標だけであるからである。悪性疾患のDPCにおいては、悪性腫瘍のMD指標はカウントしなかった。

ix ICD10コードではE102-8,E112-8,E122-8,E132-8,E142-8とMD指標では定義している。

x E100,E110,E120,E130,E140,E101,E111,E121,E131,E141,E109,E119,E129,E139,E149

xi F00-F02I,F03\$,G30\$,G31I

xii I260,I278-9,J41\$,47\$,J960,J961,J969

xiii I70\$,I71\$,I72\$,I73,I771,R02

xiv N18\$,N19\$,Z49\$,Z940,Z992

xv I50\$

xvi M05-M06,M08-M09,M32\$-M34\$,M35\$

xvii K700,K701,K709,K710,K713-716,K718,K719,,K721,K729,K73\$,K748,K760-761,K768-769

xviii I850,I859K702-704,K711,K712,K717,K720,K740-746,K762-767

xix C000-419,C450-768,C810-969,D890,Z854

xx C770-80

xxi 悪性腫瘍(dcintum)、転移性腫瘍(dcinmst)のいずれかが出現した場合をカウントした。

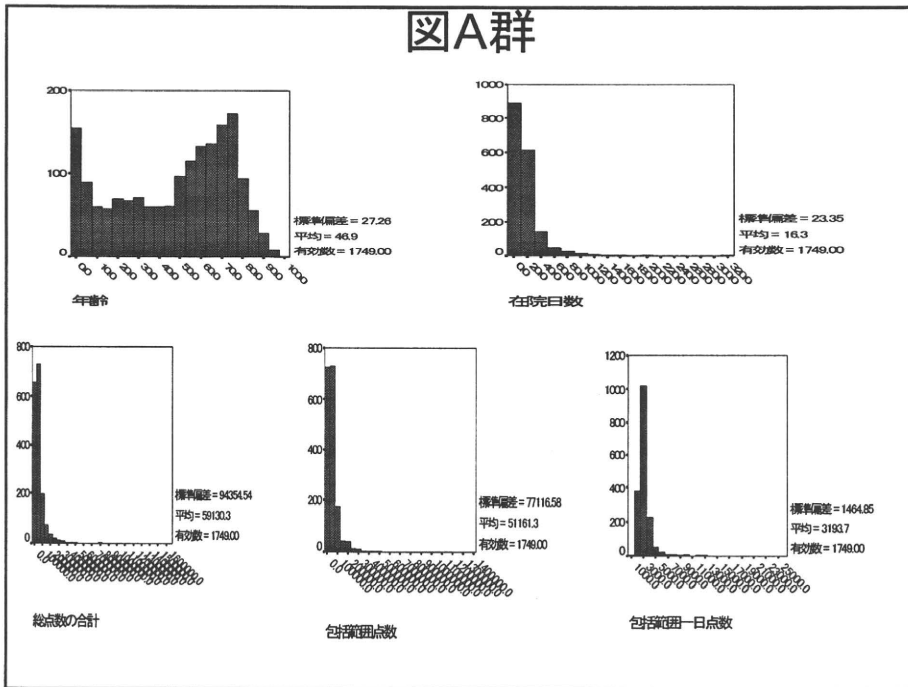
xxii N40

xxiii I260,I269,I80\$

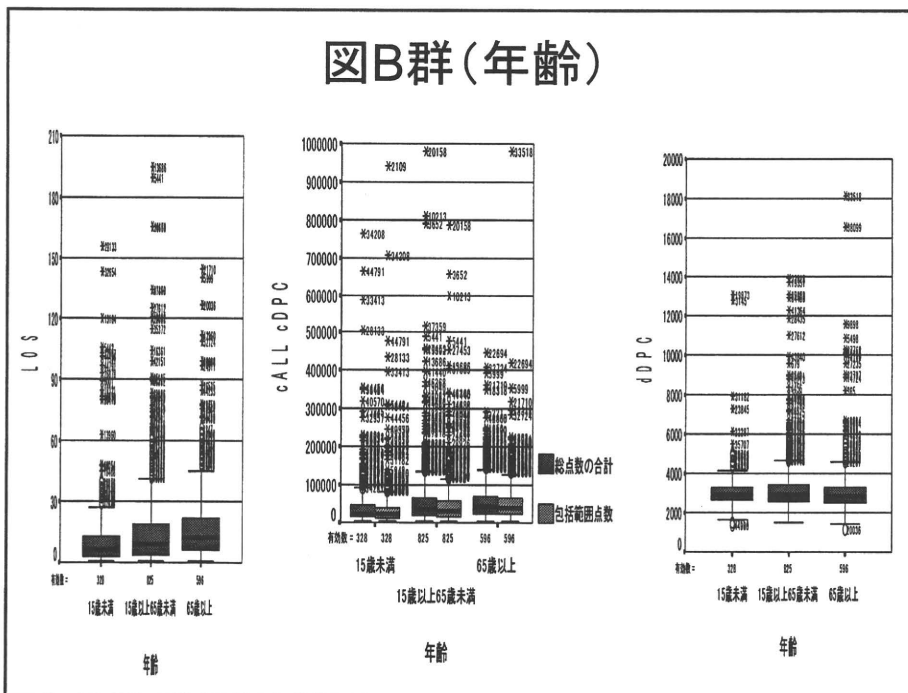
xxiv T81\$を手術関連続発症とした。創感染、出血、膿瘍形成などが該当する。

xxv 対照は年齢では15歳以上65歳未満群、女性、地域では関東、私立とした。部位病理、手術などでは『不明他群』、『手術なし他群』を対照とした。他因子は無群を対照とした。説明因子が10症例以下の場合は、因子投入しなかった。

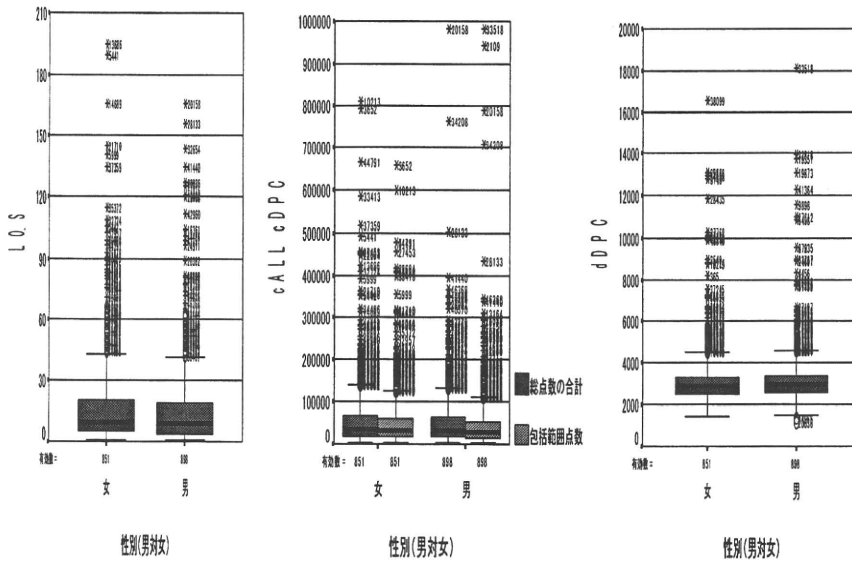
図A群



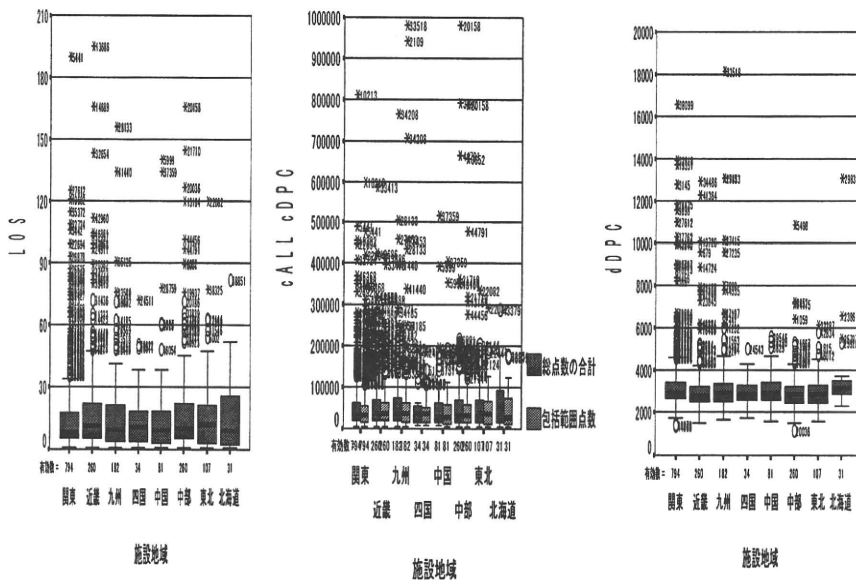
図B群(年齢)



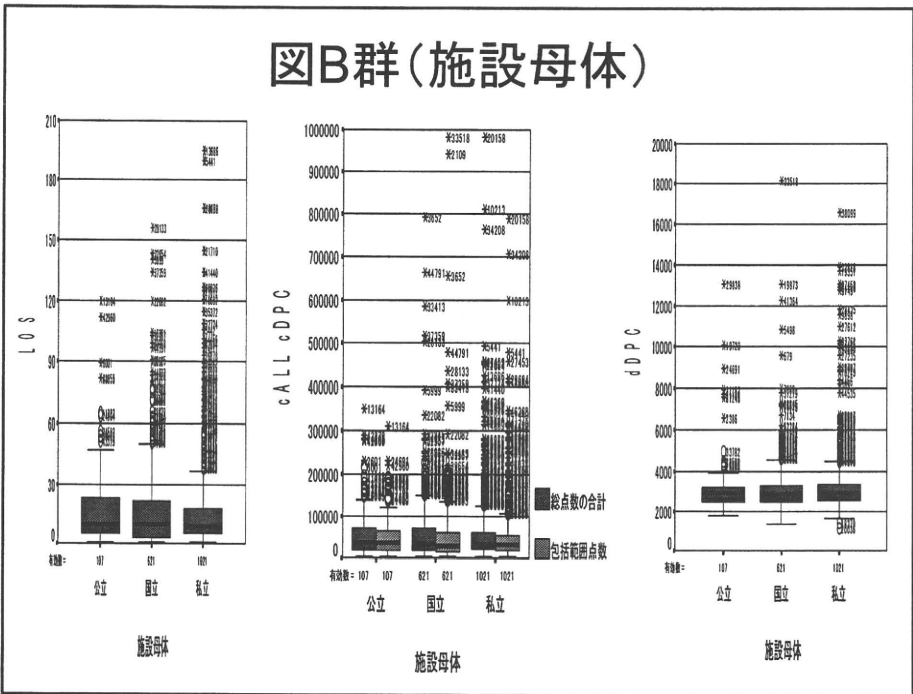
図B群(性別)



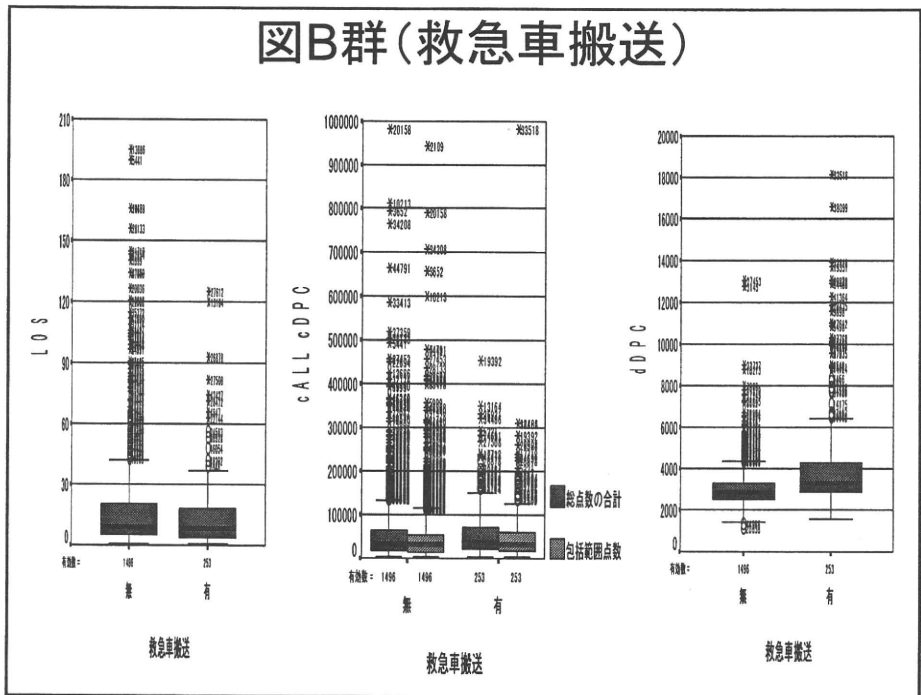
図B群(施設地域)



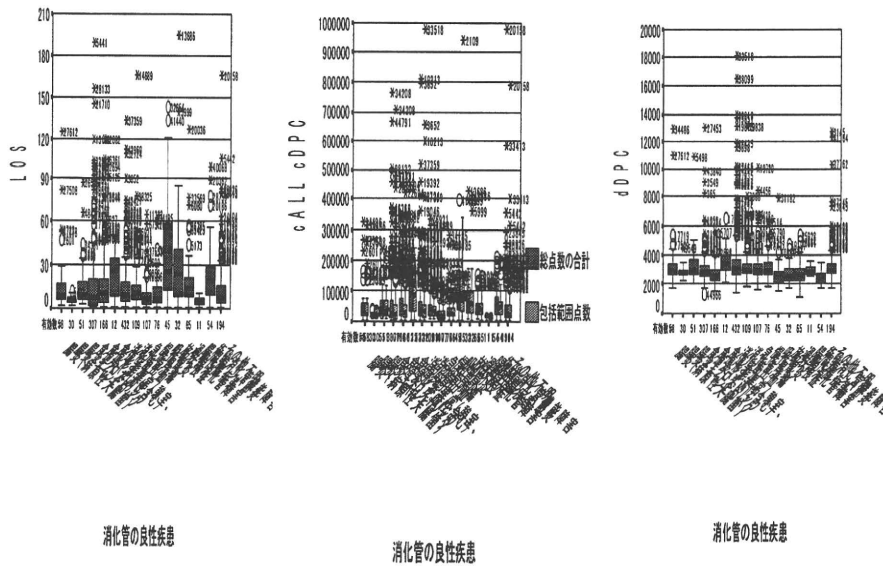
図B群(施設母体)



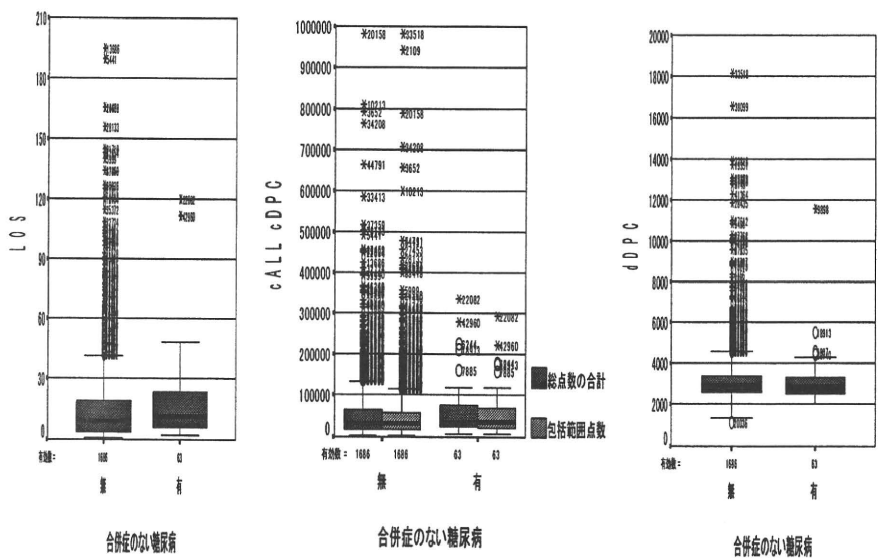
図B群(救急車搬送)



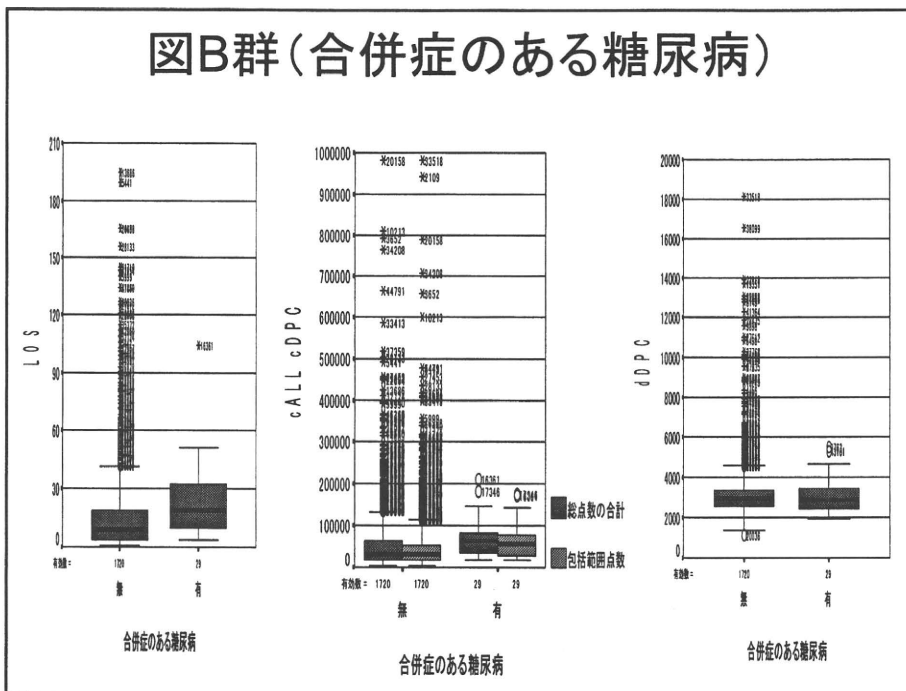
図B群(消化管の良性疾患)



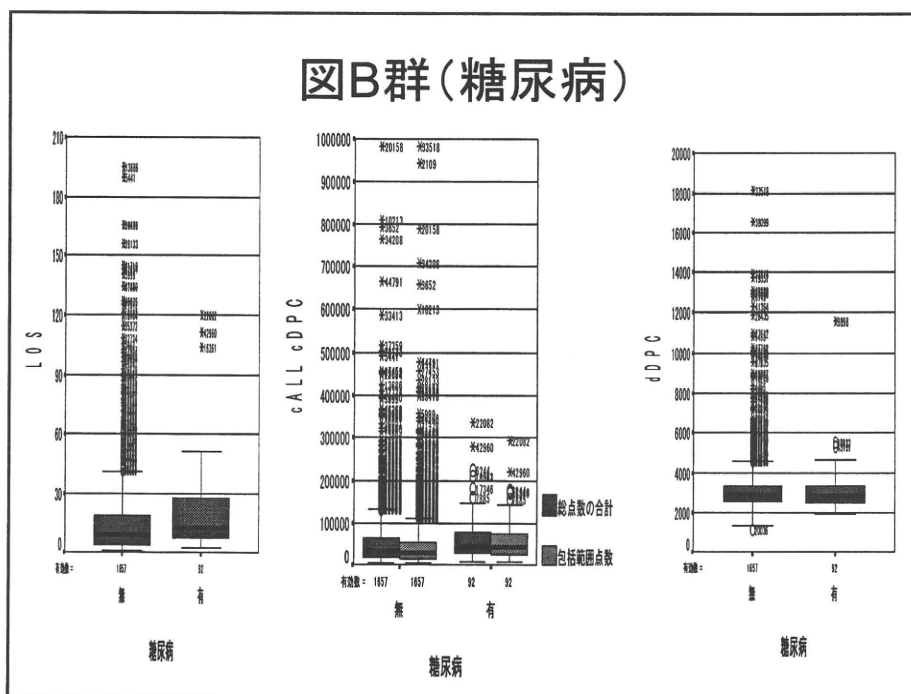
図B群(合併症のない糖尿病)



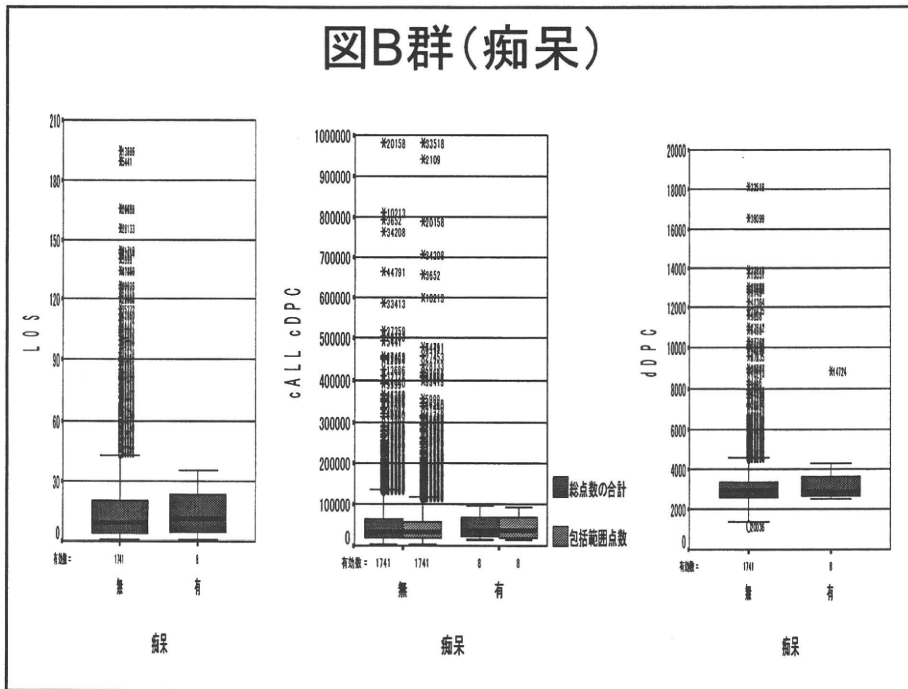
図B群(合併症のある糖尿病)



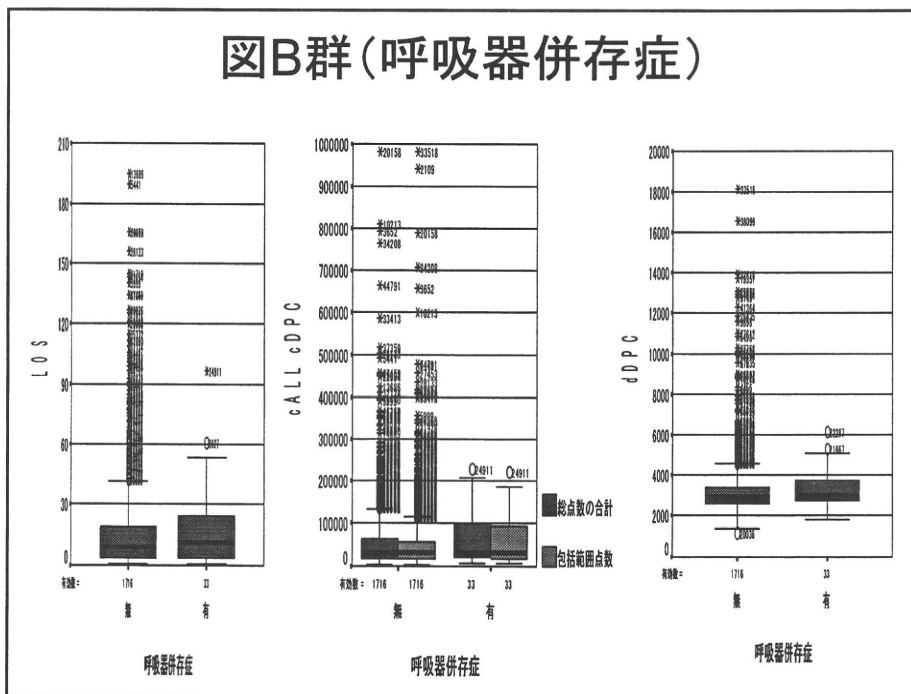
図B群(糖尿病)



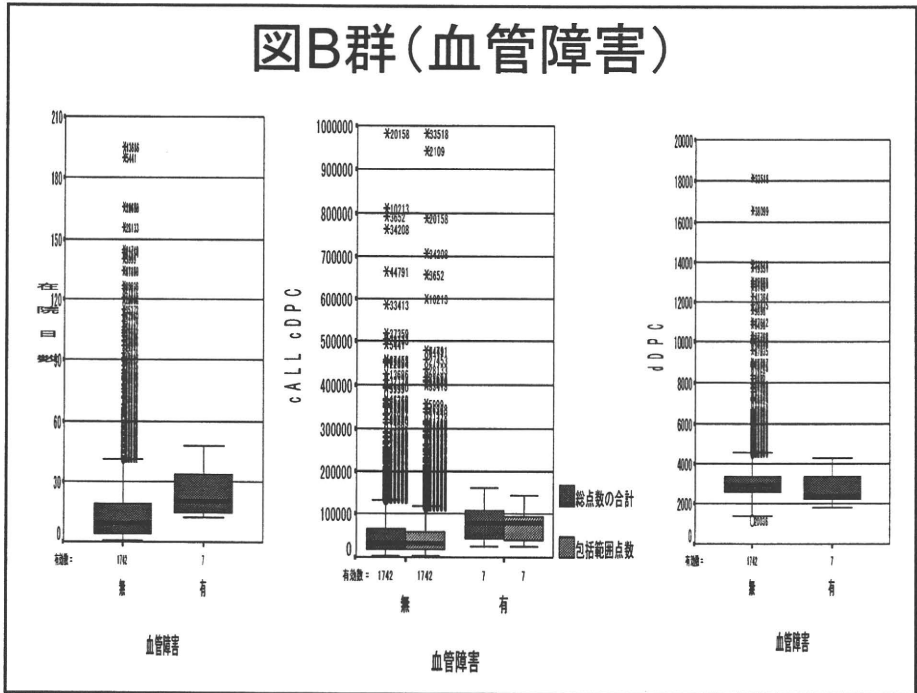
図B群(痴呆)



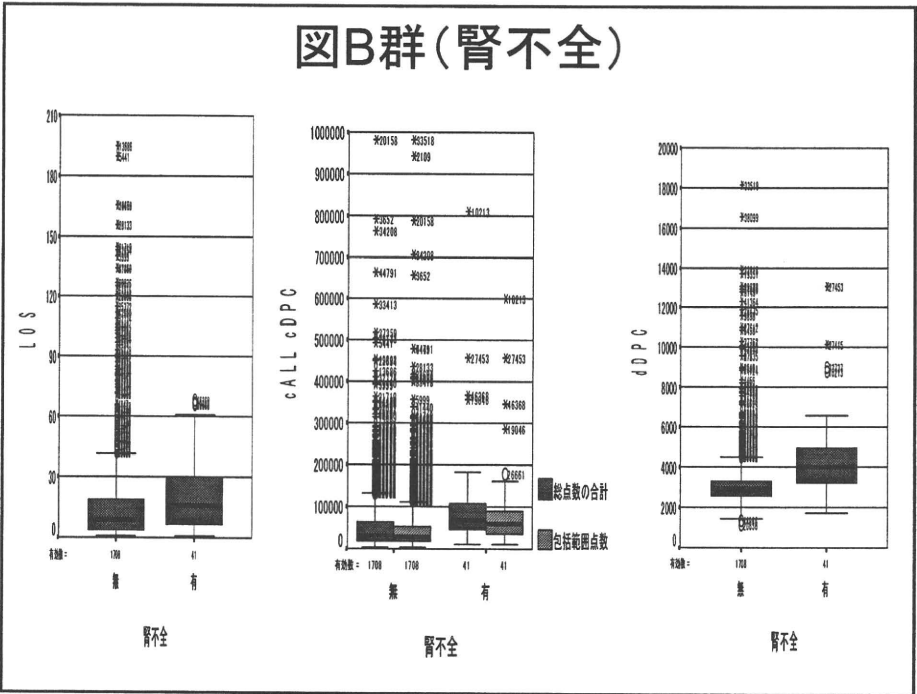
図B群(呼吸器併存症)



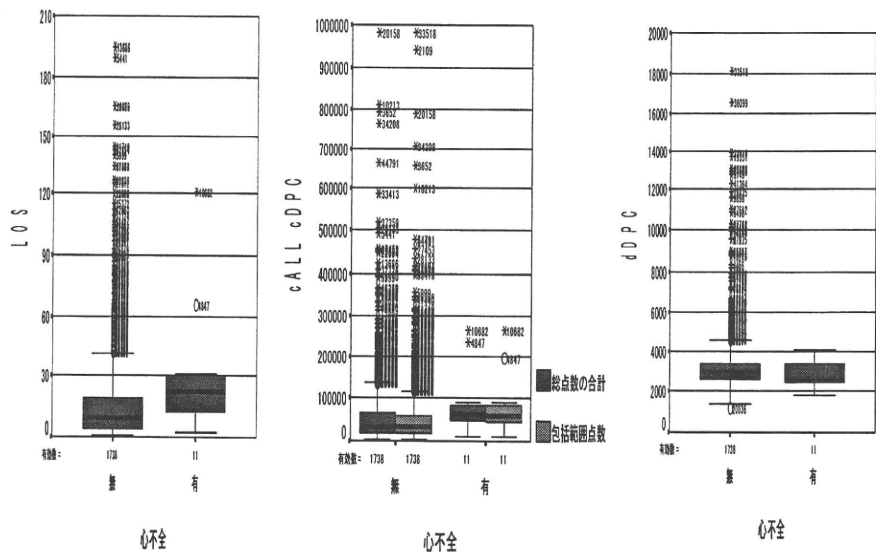
図B群(血管障害)



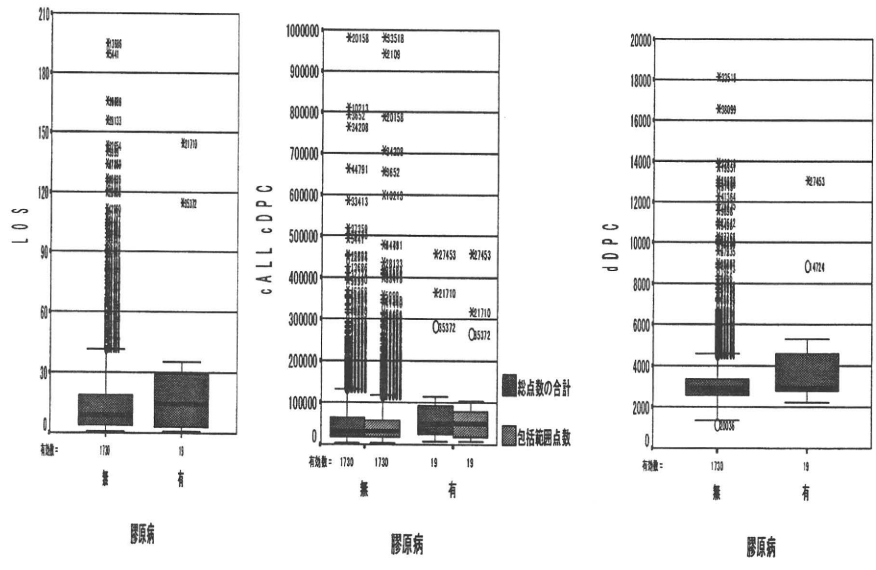
図B群(腎不全)



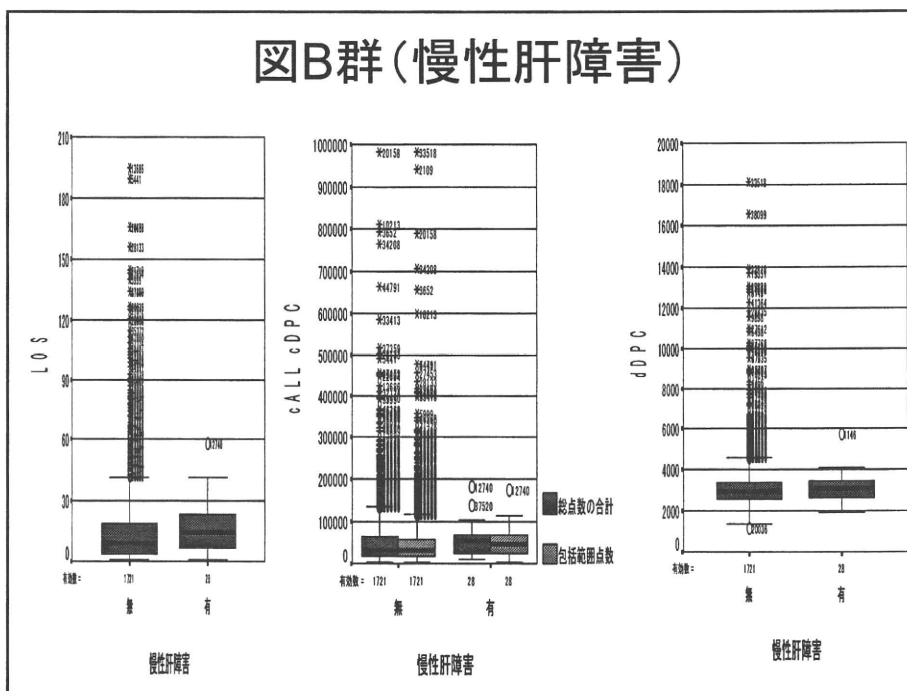
図B群(心不全)



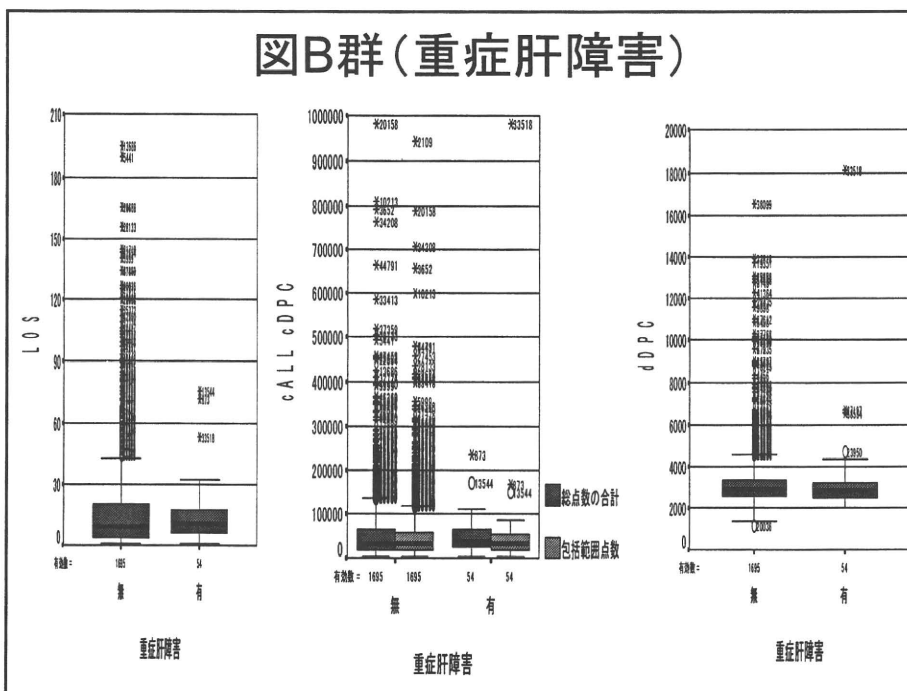
図B群(膠原病)



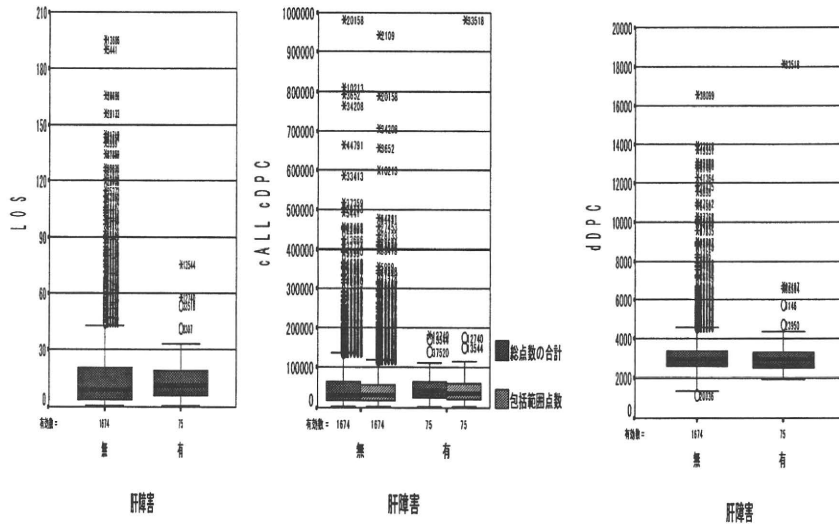
図B群(慢性肝障害)



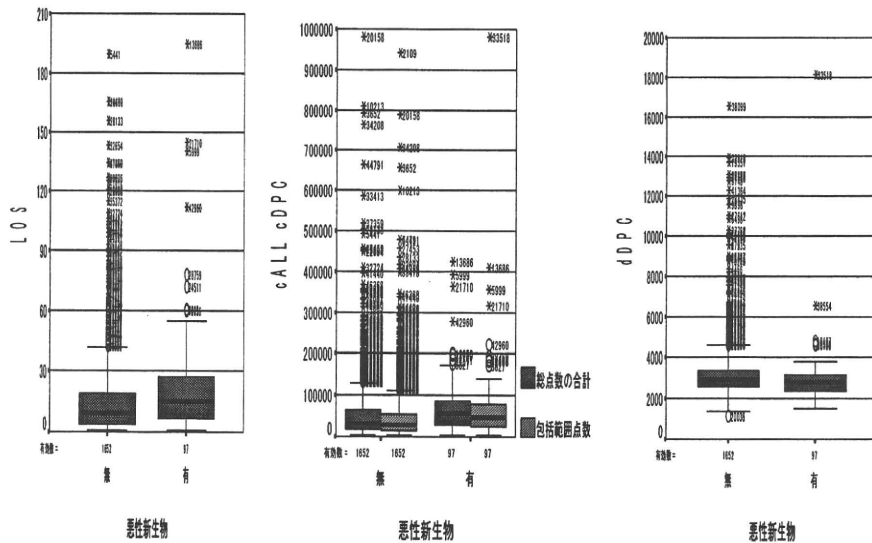
図B群(重症肝障害)



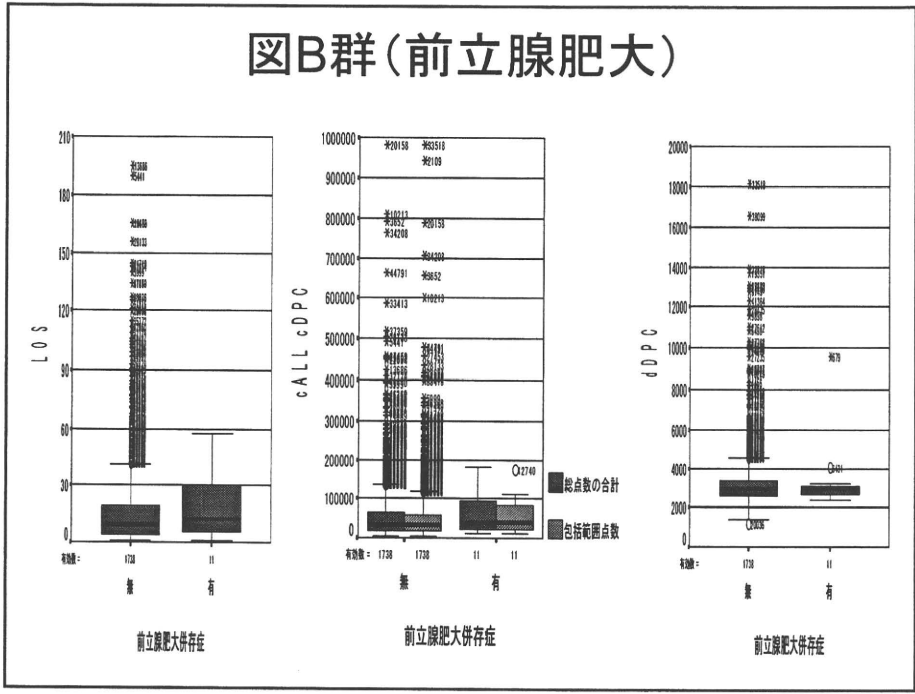
図B群(肝障害)



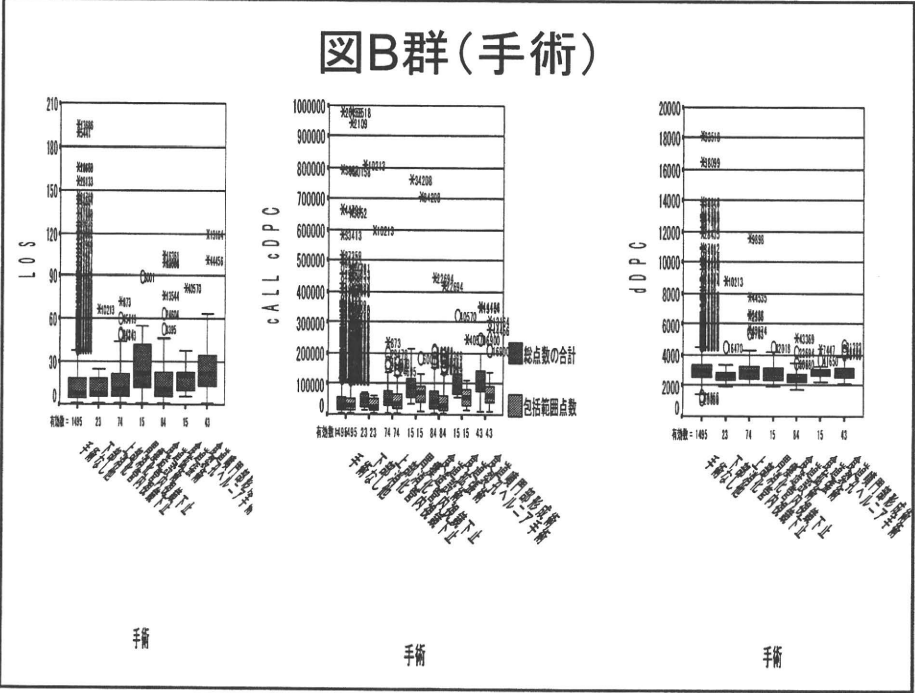
図B群(悪性新生物)



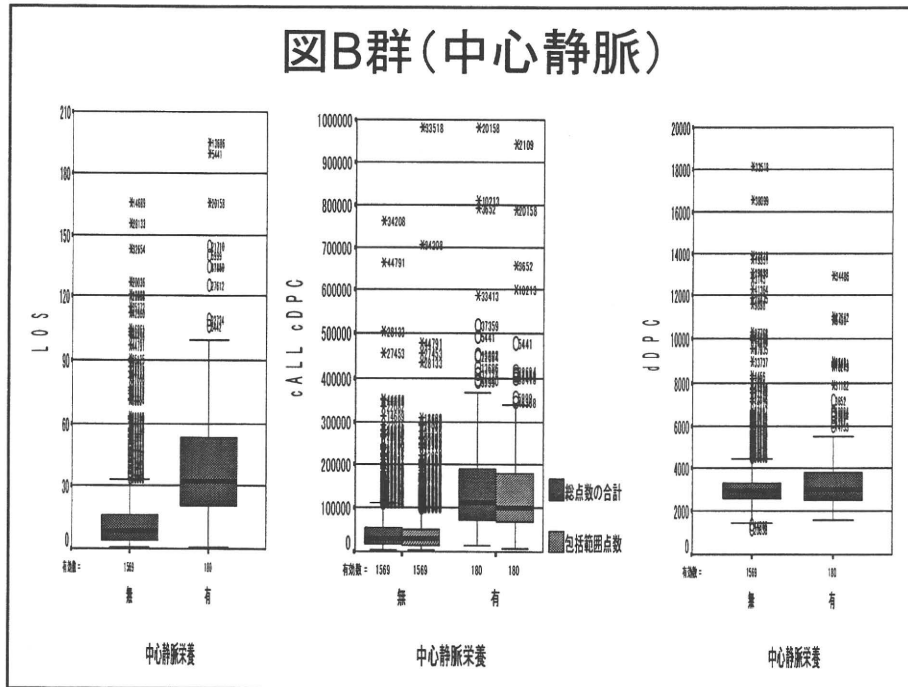
図B群 (前立腺肥大)



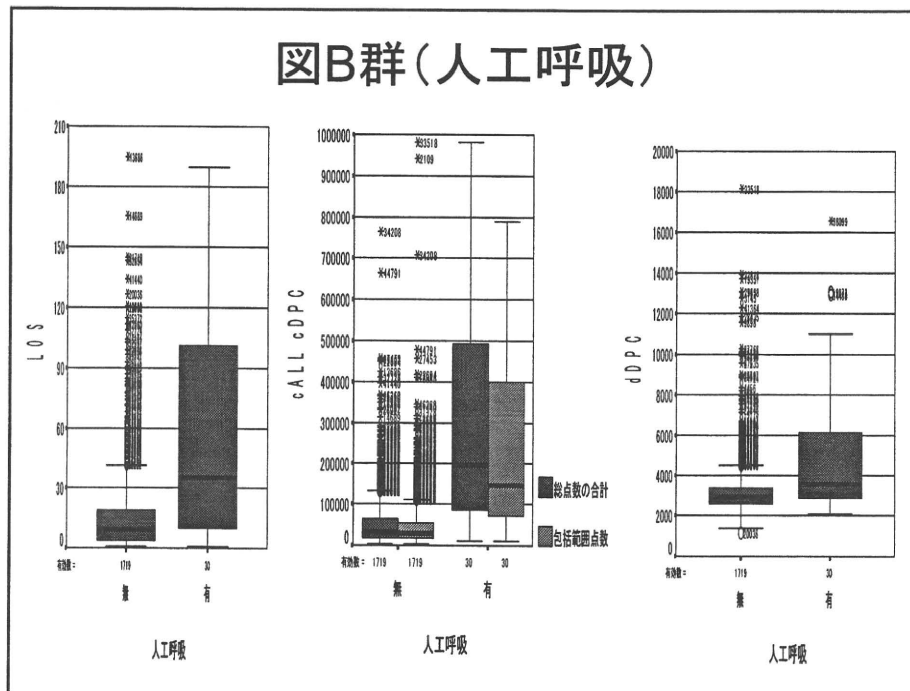
図B群 (手術)



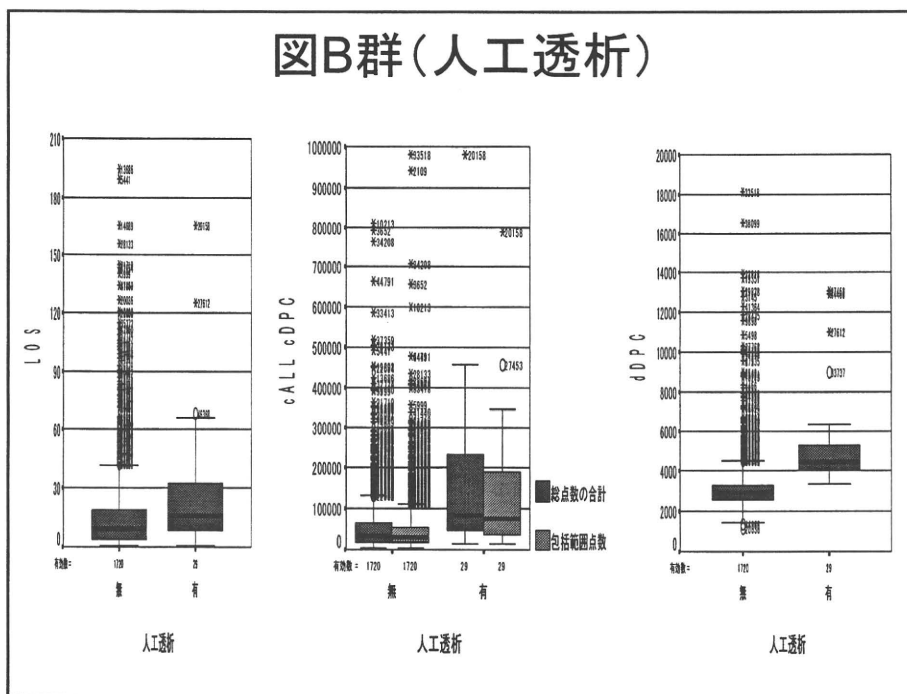
図B群(中心静脈)



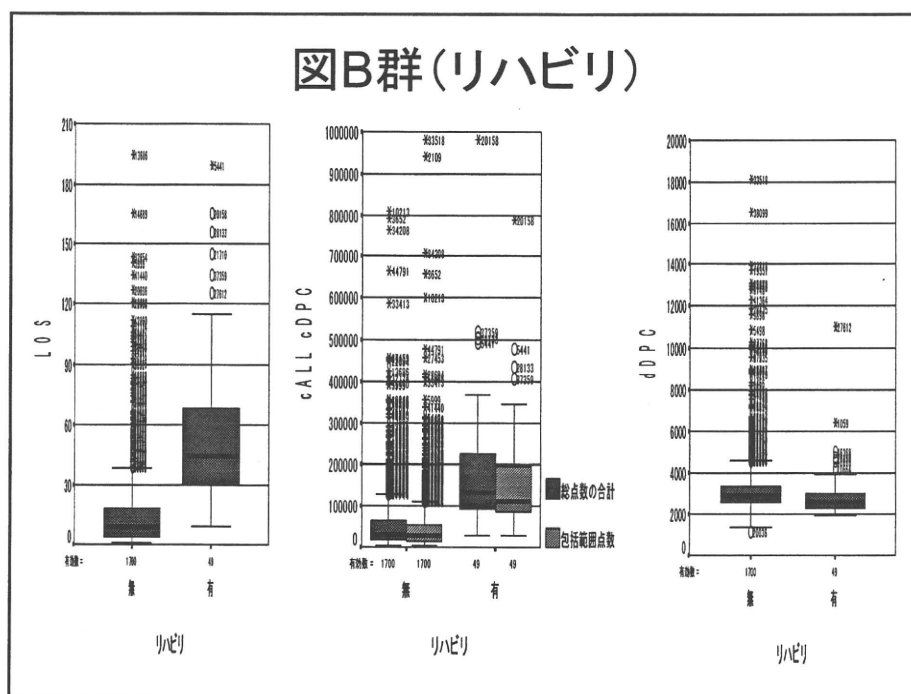
図B群(人工呼吸)



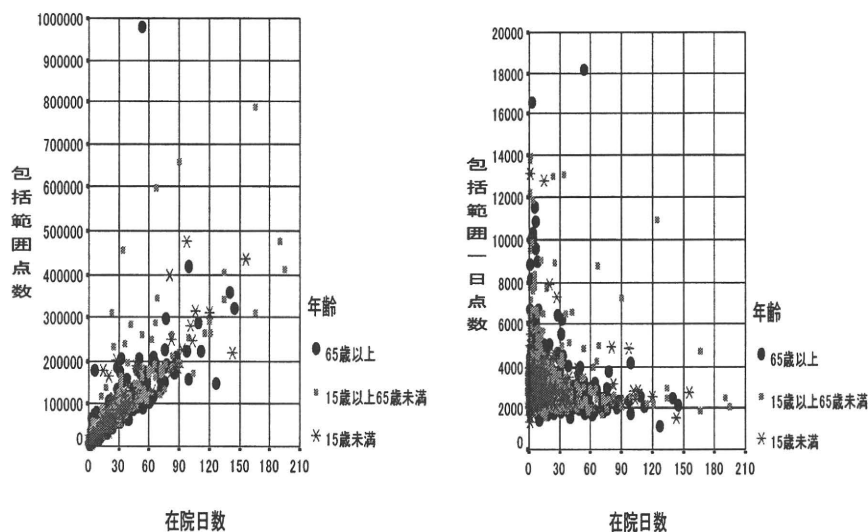
図B群(人工透析)



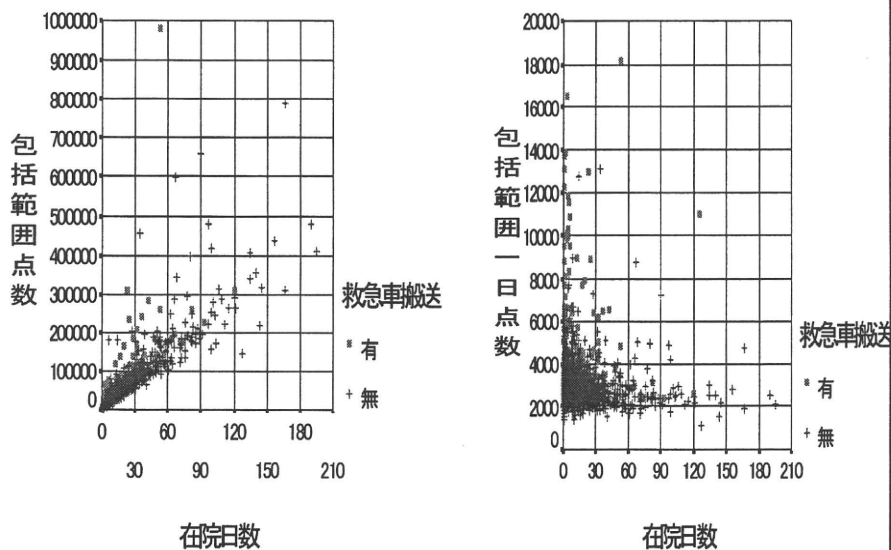
図B群(リハビリ)



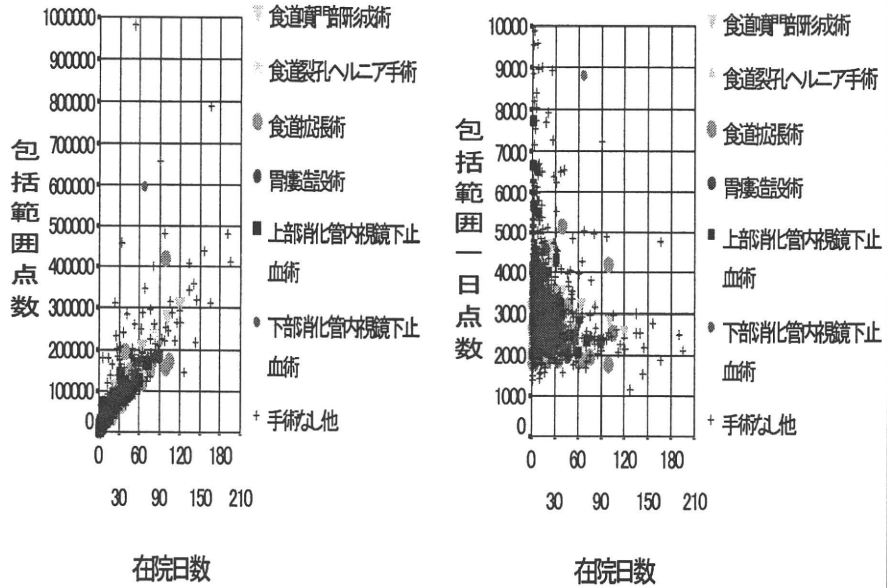
図B群(年齢)



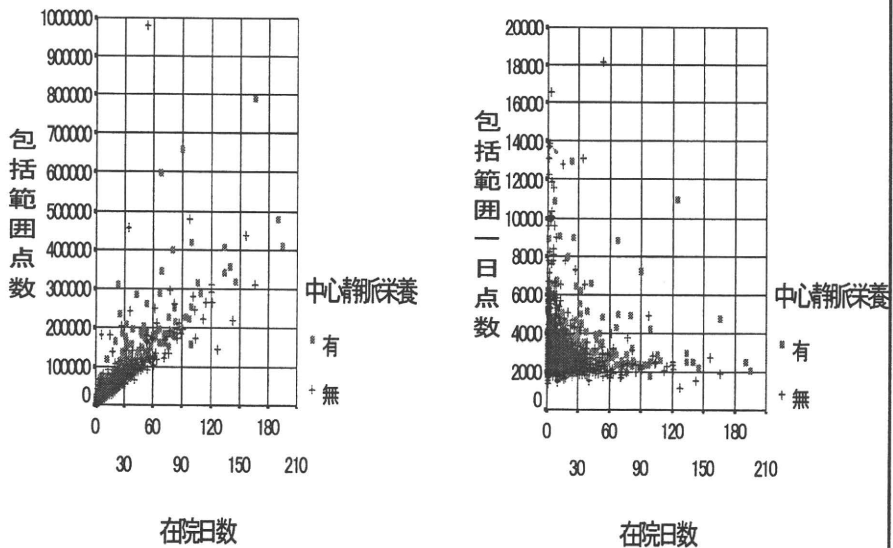
図B群(救急車搬送)



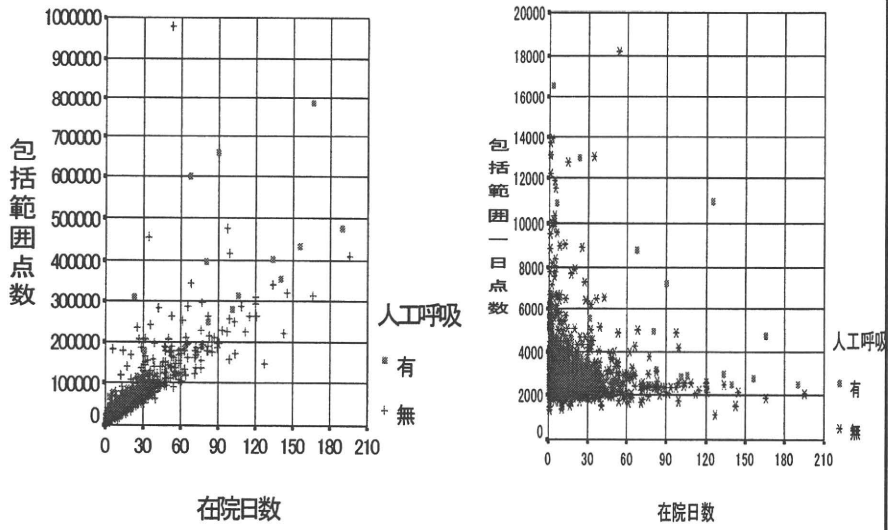
図B群(手術)



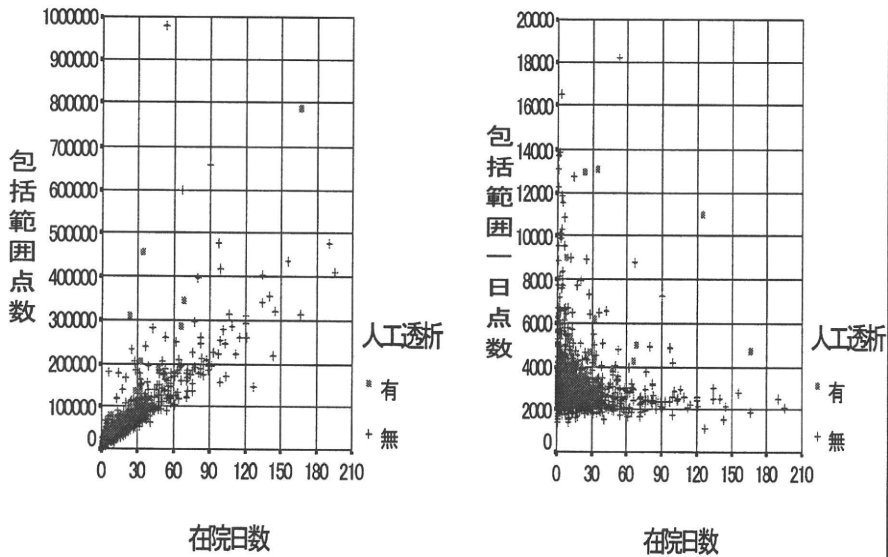
図B群(中心静脈)



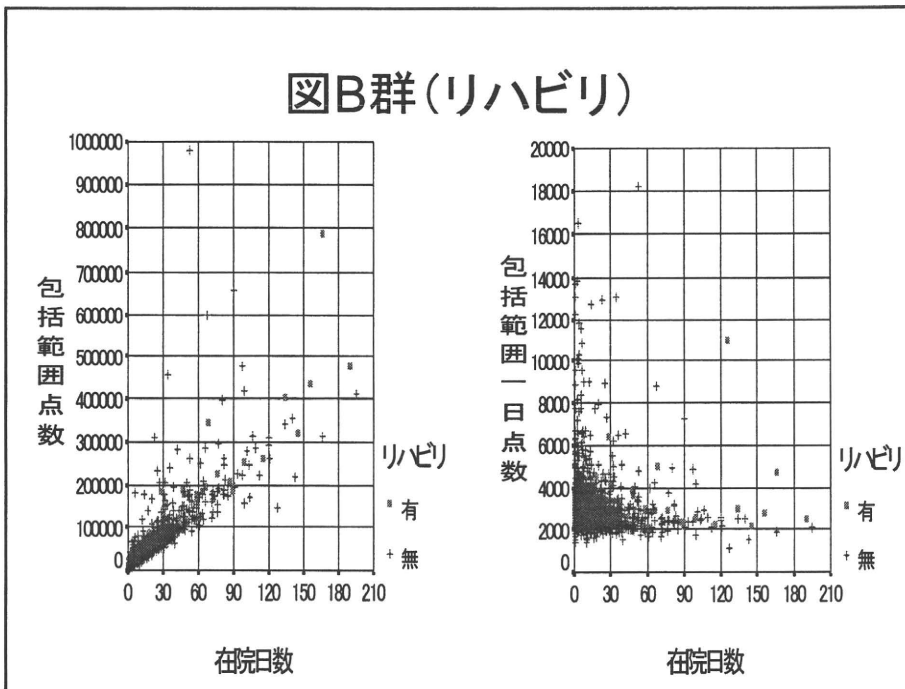
図B群(人工呼吸)



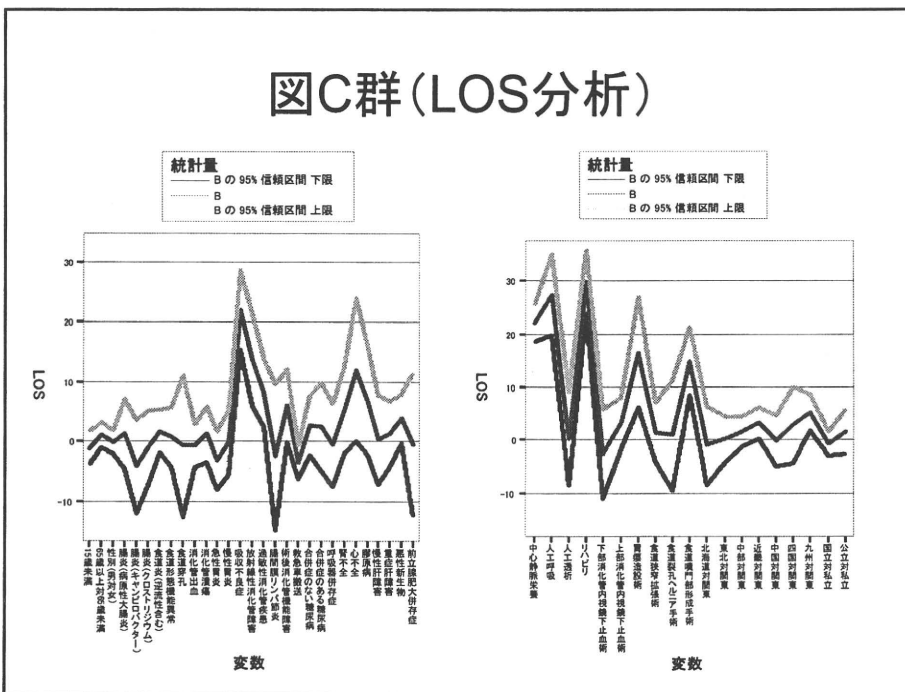
図B群(人工透析)



図B群(リハビリ)

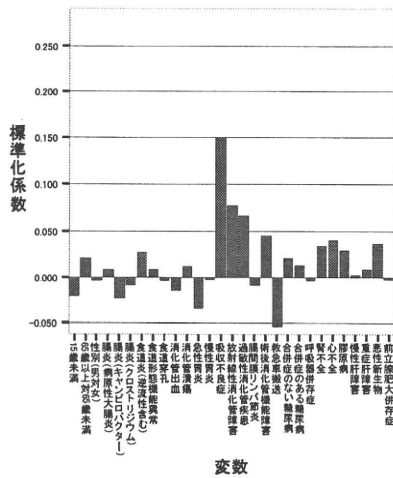


図C群(LOS分析)

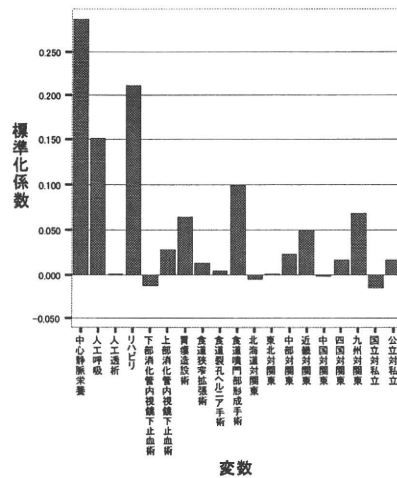


図C群 (LOS分析)

LOS標準化係数

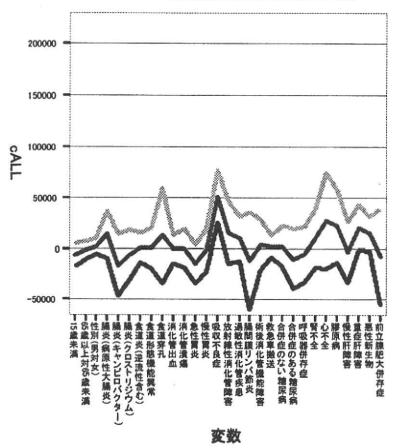


LOS標準化係数



図C群 (cALL分析)

統計量
 Bの95%信頼区間 下限
 B
 Bの95%信頼区間 上限



統計量
 Bの95%信頼区間 下限
 B
 Bの95%信頼区間 上限

